

★風しん抗体検査の結果、風しん抗体価が低く、風しん第5期予防接種の対象となった場合は、下記の説明をよく読まれた上で、医療機関で接種をお受けください。

風しん第5期予防接種説明書

風しんについて

風しんは、風しん患者の咳やくしゃみで飛び散る風しんウイルスの感染によって起こる病気で、潜伏期間は14～21日間です。主な症状は、発熱、発疹、リンパ節の腫れなどですが、症状が出ないこともあります。しかし、まれに血小板減少性紫斑病や脳炎を合併することがあります。特に、妊娠20週頃までの妊婦が感染すると、胎児も風しんウイルスに感染し、先天性心疾患、白内障、難聴などの先天性風しん症候群の赤ちゃんが生まれることがあります。

麻しん風しん混合(MR)ワクチンについて

麻しん風しん(MR)ワクチンは、麻しんウイルスと風しんウイルスを弱毒化して作られた生ワクチンです。接種を受けた人の約95%以上に、感染予防に必要な抗体ができるとされています。抗体価の持続は20年近く、自然感染による発症を予防するといわれています。

ワクチンの副反応

主な副作用は、発熱と発疹、局所症状(腹痛、腫脹、硬結、熱感等)です。稀にみられる思い副反応としては、アナフィラキシーショック様症状、血小板減少性紫斑病、急性散在性脳脊髄炎、脳炎、脳症があります。

(1) 予防接種を受ける時の注意

予防接種について、必要性や副反応についてよく理解しましょう。そして何か気になることがあれば、あらかじめかかりつけの医師に相談してください。予診票(医療機関でもらえます)は接種する医師にとって大切な情報です。責任を持って正確に記入するようにしましょう。

(2) 予防接種を受けることができない人

- ① 明らかな発熱のある人(通常37.5度以上の場合を指します)
- ② 重篤な急性疾患にかかっている人
- ③ 予防接種の接種液の成分によって、アナフィラキシーショック(接種後30分以内に出現する呼吸困難や全身のじんましんなどを伴う思いアレルギー反応)を起こしたことがある人
- ④ 診察の結果、医師が接種できない状態と判断した場合

(3) 予防接種に際し、医師とよく相談しなくてはならない人

- ① 心臓病、腎臓病、肝臓病や血液、その他慢性的の病気で治療を受けている人
- ② 以前に受けた予防接種で、接種後2日以内に発熱のみられた者及び全身性発疹等のアレルギーを疑う病状を呈したことがある人
- ③ 今までにけいれんをおこしたことがある人
- ④ 今までに免疫状態の異常を指摘されたことがある人、もしくは近親者に先天性免疫不全症のかたがいる人
- ⑤ この予防接種の成分に対して、アレルギーを起こすおそれがある人

(4) 予防接種を受けた後の一般的注意事項

- ① 接種後24時間は副反応の出現に注意し、観察しておく必要があります。特に接種直後の30分以内は健康状態の変化に注意しましょう。
- ② 予防接種後に高熱やけいれんなどの異常があった場合は、速やかに医師の診察を受けてください。
- ③ 入浴は差し支えありませんが、注射した部位をこすことはやめましょう。
- ④ 接種当日はいつもの生活をしてかまいませんが、激しい運動や大量の飲酒は避けましょう。
- ⑤ このワクチンの接種後、違う種類のワクチンを接種する場合には、27日間以上の間隔をあける必要があります。

(5) 副反応が起こった場合

定期の予防接種によって健康被害(入院が必要な疾病や障害など)が生じた場合については、その健康被害の状況に応じて、予防接種法に基づく補償を受けることができます。ただし、その健康被害が予防接種によって引き起こされたものか、別の要因によるものなのかの因果関係を、予防接種・感染症医療・法律など各分野の専門家からなる国の審査会にて審議し、予防接種によるものと判断された場合に補償を受けることができます。